

2011年第4四半期の純利益は198億ドルと公表
税引き後営業利益は16億ドル
第4四半期の純利益は繰延税金資産の評価性引当金の減算177億ドルを含む

2012年2月23日（ニューヨーク発）：AIGは、2011年第4四半期のAIGに帰属する純利益が198億ドルになったと公表しました。これに対して、2010年第4四半期は112億ドルでした。2011年第4四半期の希薄化後1株当たり利益は10.43ドルとなり、これに対して2010年第4四半期は16.60ドルでした。2011年通年では、AIGに帰属する純利益が178億ドルとなり、これに対して2010年は78億ドルでした。希薄化後1株当たり利益は9.44ドルとなり、これに対して前年は11.60ドルでした。

純利益は、米国の連結法人税に関する繰延税金資産の評価性引当金の減算が、第4四半期に177億ドル、通年では166億ドルになったことを反映しています。以前開示したとおり、AIGは繰延税金資産の還元可能性を評価するための枠組みを作りました。この枠組みを当てはめると米国の連結法人税の繰延税金資産の大部分は実現される可能性が高いとAIGは判断し、2011年第4四半期にその部分に相当する評価性引当金を減算しました。

2011年第4四半期の税引き後営業利益は16億ドル、1株当たり希薄化後利益は0.82ドルとなり、これに対して2010年第4四半期は、22億ドルの損失、希薄化後1株当たりでは15.99ドルの損失でした。2011年通年の税引き後営業利益は18億ドル、1株当たり希薄化後利益は1.02ドルとなり、これに対して2010年通年は8.98億ドルの損失、1株当たり希薄化後では6.57ドルの損失でした。

2011年通年の純利益には、前年の11億ドルから増加して合計33億ドルとなった異常災害損失、2011年中のインターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）の航空機に関する減損費用および公正価値調整17億ドルが含まれます。さらに債務償却における正味29億ドルの税引き前損失も含まれますが、これは主に、ニューヨーク連邦準備銀行（NY連銀）のクレジット融資枠の全額返済に関連する前払委託手数料資産の加速償却で、下位劣後債を上位債に交換した際の利益によって一部相殺されました。2010年通年の純利益には、資産および事業の売却による税引き前利益176億ドル、チャータイスの支払準備金を積み増すための正味費用42億ドルが含まれます。2011年1月の米国財務省に対するAIG普通株式の発行が、AIG普通株主に帰属する純損益および発行済み加重平均株式数に影響を及ぼしました。いずれも1株当たり利益の算出に用いる値です。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは以下のように述べました。「第4四半期ならびに通年の業績は、AIGの各従業員による事業のファンダメンタルズに対する徹底した尽力と注力を反映したものです。記録的な自然災害が発生した中で、利益を確保できたことは、この会社が再びマーケット・リーダーとしての誇りを築きあげることにつながります。私はまた、自然災害が発生した際、私達がお客様を支え、お客様に寄り添って不安を取り除くことができたことを大変誇りに思っています。」

「2年前、私達を支持していただいている方々も含め、懐疑的な考えを持った人々は、AIGが2年連続で利益をあげるようになるとは考えてもいませんでした。2011年中にAIGは、投資適格の格付けを維持しながら、NY連銀クレジット融資枠を全額返済し、米国政府の持分を再構成して米国財務省に明確な回収への道筋を提供しました。私達は、87億ドルの株式発行と、民間の債券市場において競争的なレートで資金を調達する力を通じて、AIGはかつてのように投資家の信頼を得るに値することを証明しました。また他にも重大なことを数多く成し遂げる中、事業の安定化とリスク軽減に必要なほとんどの作業を終えました。」

ベンモシェ社長兼 CEO は以下のように締めくくりました。「2011 年に私達は再び繁栄に向かい始めました。将来の利益見通しに対してかなり自信を持っています。これは、繰延税金資産の評価性引当金の減算を裏付ける評価において、重要な要素です。2012 年以降については、中核の保険事業のすべての分野で競争力を維持する見込みです。チャーティスでは市場の硬化を受け堅調に推移するとみられます。サンアメリカは退職者の重大なニーズを満たすための主導的な立場にあります。ユナイテッド・ギャランティは市場リーダーになっており、貸し手、住宅所有者、地域社会、地方経済を住宅ローンの債務不履行から保護できるような革新的な商品を開発しています。2011 年にユナイテッド・ギャランティは、およそ約 4 万世帯が自宅を保有し続けられるようにサポートを行いました。」

流動性および資金管理

- 2011 年 12 月 31 日現在の AIG の株主資本は、1,050 億ドルとなりました。2011 年 12 月 31 日現在の普通株式 1 株当たり帳簿価額は、2011 年 9 月 30 日現在の 45.30 ドルから 22% 増加して、55.33 ドルとなりました。これは繰延税金資産の評価性引当金の減算を反映しています。
- 2011 年第 4 四半期に AIG は、普通株式およそ 7,000 万ドルを平均 1 株当たり株価 22.75 ドルで買い戻しました。
- 2011 年 11 月、AIG は発行済み下位劣後債 24 億ドルと引き換えに、上位債 18 億ドルを新たに発行し、債務償却の税引き前利益は 4.84 億ドルとなりました。
- 2011 年 11 月、AIG は 9.72 億ドルを支払い、米国財務省が保有する AIA オーロラ・エルエルシーの優先的分配権の残額を約 84 億ドルまで減少させました。この返済資金は主に、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニーの売却に関連して開設されたエスクロー勘定の解約に伴うものです。
- 子会社からの配当金および債務返済は、2011 年第 4 四半期には合計 9.53 億ドル、2011 年通年では 30 億ドルとなりました。
- 2011 年 12 月 31 日現在、親会社 AIG の流動性はおよそ 140 億ドルとなっています。

税引き後営業利益（損失）の要約 (単位：百万米ドル)

	第 4 四半期		通期	
	2011 年	2010 年	2011 年	2010 年
保険事業：				
チャーティス	\$ 348	\$ (3,974)	\$ 1,116	\$ (1,068)
サンアメリカ	931	1,043	3,261	4,048
モーゲージ・ギャランティ（その他の事業に計上）	(23)	154	(93)	329
保険事業合計	1,256	(2,777)	4,284	3,309
航空機リース	119	(606)	(995)	(698)
直接投資	(27)	394	604	1,421
グローバル・キャピタル・マーケット	46	293	(11)	210
AIA ならびにメットライフの利益	1021	27	1,132	27
金融受け皿会社（Maiden Lane III）	208	382	(646)	1,792
支払利息 ⁽¹⁾	(456)	(660)	(2,025)	(3,016)
全社費用および消去	92	(461)	(165)	(1,385)
税引き前営業利益（損失）	2,259	(3,408)	2,178	1,660
法人税（経費）／ベネフィット	(580)	1,756	345	(336)
非支配的持分－米国財務省／NY 連銀	(96)	(403)	(634)	(1,818)
その他非支配的持分	(25)	(159)	(63)	(404)
AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）	\$ 1,558	\$ (2,214)	\$ 1,826	\$ (898)

(1) 2010 年第 4 四半期には 1.1 億ドル、2011 年通期には 2,400 万ドル、2010 年通期には 6.36 億ドルの NY 連銀持分を含む。

チャーティス

チャーティスの2011年第4四半期の営業損益は、前年同期が40億ドルの損失であったのに対して、3.48億ドルの利益となりました。これには、ディスカウントおよび損失に敏感な保険料の調整後の支払準備金積増し費用42億ドルが含まれています。2011年第4四半期業績には、前年同期の2.03億ドルに対して、異常災害損失がタイの洪水関連3.68億ドルを含め4.67億ドルとなったことが影響しています。

全体的に、チャーティスは引き続き、料率の良好なトレンドから四半期中恩恵を受けました。事業構成の変更、損害率の改善、費用規律、リスク選択など保険ポートフォリオの質的改善に向けた戦略的措置でも進展がありました。

2011年第4四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が160.5であったのに対し、107.3となりました。これには前年同期の支払準備金の積増しによる49.2ポイントが含まれています。2011年保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が100.3であったのに対し、99.4となりました。2011年第4四半期の業績には、前年の支払準備金による正味でのプラスの影響1,300万ドルが含まれています。

2011年第4四半期の正味収入保険料は、前年同期比で3.6%増加、為替の影響を除くと1.7%増加しました。個人向け保険の増加から恩恵を受け、コンシューマー・インシュアランス事業がこの増加のうち2.4%を占めました。これを一部相殺したのは、コマーシャル・インシュアランス事業の保険料の0.6%の減少です。これは主に、一部の損失に敏感な事業の再編など損害保険の資金管理によるものです。

コマーシャル・インシュアランス事業の2011年第4四半期の営業利益は2.02億ドル、コンバインド・レシオは111.6となりました。2011年保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと105.0となりました。通年ではコマーシャル・インシュアランス事業の保険料は、主に金利環境の改善と景気回復により、現地通貨建てでは3.7%増加しました。チャーティスの事業戦略構成と歩調を合わせて、特殊リスク向け商品、ファイナンシャルライン商品の保険料は通年で増加しました。主に資金効率を高めるための戦略的措置により、新種部門の保険料は減少しました。チャーティスはまた戦略的目標に沿って、成長国でコマーシャル・インシュアランス事業を拡大させました。

コンシューマー・インシュアランス事業の2011年第4四半期の営業利益は1.74億ドル、コンバインド・レシオは97.6となりました。2011年保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと95.8となりました。通年ではコンシューマー・インシュアランス事業の保険料は、現地通貨建てでは14.7%増加しました。この主な要因となったのは、2010年下半期に富士火災海上保険株式会社を取得したこと、チャーティスが主要市場での成長と国際的な事業拡大に重点を置いたことです。富士火災の影響を除くと、成長戦略および金利上昇により、特にファー・イースト地域で、傷害・医療保険が成長しました。また富士火災を除くと、低迷している一部のプログラムに対する是正措置が一因で、個人向け商品の保険料はわずかに減少しました。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの2011年第4四半期の営業利益は、前年同期が10億ドルであったのに対して、9.31億ドルとなりました。2011年第4四半期業績は、2011年1月～9月に生じた過剰現金を再投資したこと、訴訟の有利な和解で2.13億ドルを受領したことによって恩恵を受けました。さらに第4四半期には、発生しているものの報告されていない死亡請求1.05億ドルに対する見積支払準備金が増加しました。保険会社は有効な死亡請求が提出されていない場合に、時間が経ってから振り返って、死亡した可能性がある保険契約者を特定するための手続きを強化しており、最近、これに関係する情報が開示されています。2011年第4四半期の正味投資利益は、ヘッジファンドおよびプライベート・エクイティ投資のリターン低下、コールおよび入札による収入の減少により、前年同期を下回りました。

2011年第4四半期の基礎投資利回りは5.44%となり、これに対して前年同期は5.30%でした。これは2011年に過剰現金を再投資したことを反映しています。このような利回りの向上と、サンアメリカの規律ある貸出金利の管理によって、グループ・リタイアメント商品および個人向け定額年金の基礎的な正味投資スプレッドは改善しました。

2011年第4四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の49億ドルに対して、計57億ドルとなりました。これは、グループ・リタイアメント商品および個人向け変額年金が、大幅に増加したことによるものです。グループ・リタイアメント商品は、主に個人繰越し預かり資産の増加により、前年同期比27%増加しました。サンアメリカは、低金利のため、個人繰越し預かり資産の成長は短期的には鈍化すると見込んでいます。個人向け変額年金預かり資産は、前年同期比24%増加しました。これは競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業体による昨年の販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上によるものです。定額年金預かり資産は前年同期比2%増加しました。一部の銀行との間で、手数料引下げと引換えに、貸出金利を引き上げる交渉を行ったことによって、保険契約者にとってサンアメリカの商品の魅力がより高まっています。ただし、サンアメリカは現在の低金利環境で規律を維持しており、定額年金預かり資産は2011年第3四半期から減少し、2012年第1四半期も減り続けています。ネット・フローは、4四半期連続でプラスとなりました。個人向け生命保険の販売は、2010年第4四半期から9%増加しました。これは、商品の拡充とともに、独立代理店チャンネルを修復するための努力が実を結んでいるためです。

2011年12月31日現在の運用資産は、前年同期の2,485億ドルに対して2,569億ドルとなりました。

航空機リース事業

ILFCは、前年同期が6.06億ドルの営業損失を計上したのに対し、2011年第4四半期は1.19億ドルの営業利益を計上しました。2011年第4四半期に、ILFCはリース料収入11億ドルを計上しましたが、これに対して前年同期は12億ドルでした。航空機リース収入が減少したのは、主に維持管理収入の純減によるものです。さらに2011年第4四半期には、資産減損費用、公正価値調整、その他の引当金4,000万ドルを計上しましたが、これに対して前年同期は7.42億ドルでした。これは主に、おそらく分解することはないと思われる航空機の早期返却、再取得によるものです。2011年第4四半期のILFCの平均保有機体数は、前年同期が936機であったのに対して、932機でした。

モーゲージ・ギャランティ

AIG傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション(UGC)は、前年同期の1.54億ドルの営業利益に対して、2011年第4四半期には2,300万ドルの営業損失を計上しました。当四半期の業績は、新たな延滞件数が高水準にとどまり、引き続き住宅市場の低迷が続いていることから不利な影響を受けています。UGCの2010年第4四半期業績には、第一抵当権付商品の損害動向が良好であったことが含まれています。第一抵当権付商品の平均引当金は堅調で、延滞1件当たり27,000ドルを維持しました。

正味収入保険料は、前年同期の1.67億ドルに対して、2億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、2011年第4四半期が71億ドル、2011年通期が184億ドルとなりました。高い質を保ち、2011年第4四半期の新規契約の平均FICOスコアは757、平均借入金比率は91%と高い質が保たれました。

その他の事業

AIGのその他の事業の営業利益は、前年同期が1,200万ドルであったのに対して、2011年第4四半期には9.79億ドルを計上しました。当四半期のその他の本部経費は、前年同期が2.96億ドルであつ

たのに対して、合計3億ドルとなりました。その他の業績には、下位劣後債の交換に関連した、4.84億ドルの債務返済による利益が含まれています。

2011年12月30日の香港証券取引所終値に基づく、2011年第4四半期にAIA普通株式の公正価値は、2011年9月30日からおよそ10億ドル増加しました。金融受け皿会社（ML III）におけるAIGの持分の公正価値は、前年同期に3.82億ドル増加したのに対して、2011年第4四半期には2.08億ドル増加しました。

カンファレンス・コール

AIGは、明日2012年2月24日午前8時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。米国財務省（「財務省」）が保有するAIG株式の売却時期、財務省が保有するAIAオーロラの優先持分の返済の時期および方法、ILFCに対するAIG持分の現金化、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対するAIGのエクスポート、欧州の政府および金融機関に対するAIGのエクスポート、AIGのリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIGによる配置可能な資本の創出、AIGの株主資本利益率および1株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関するAIGの戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略、そしてAIG子会社の収入およびコンバインド・レソなど考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常災害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなどAIGの投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、繰延保険獲得費用の復元可能性に関する判断、ILFCの機体価値の復元可能性に関する判断、および2011年12月31日末のAIGのフォーム10-Kによる年次報告書のパートI項目1A（「リスク要因」）、パートII項目7（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）で取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIGについて

AIGグループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130以上の国・地域でサービスを提供しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社AIG, Inc.の株式はニューヨークと東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2011 年第 4 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

AIG は、税引き後営業利益（損失）によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。税引き後営業利益（損失）は、非継続事業の純利益（損失）、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による純利益（損失）、繰延税金評価引当金の費用および減算、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、またサンアメリカの繰延保険獲得費用（DAC）による相殺、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ、富士火災の取得におけるバーゲン・パーチェス・ゲインを含む正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を除きます。AIG に帰属する純利益（損失）の税引き後営業利益（損失）の調整については、8 ページを参照してください。

また、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、シリーズ C、E、F 優先株の転換、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、前年の動向に関連する返還または追加保険料、外国為替レート、航空機の減損を除外して示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

事業利益（損失）は、チャーティスの業績を報告するために用いられています。営業利益（損失）は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、関連 DAC および販売促進資産の償却、のれん代減損費用の調整前のもので、サンアメリカの業績を報告するために用いています。非継続事業の業績および、子会社売却の純利益（損失）は、これらの数値に含まれていません。AIG は、これらの数値によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。これらの数値を開示する場合、GAAP 型税引き前利益の調整を示します。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険 CPPE 売上高）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
チャーターの保険事業：						
正味収入保険料	\$ 7,848	\$ 7,578	3.6 %	\$ 34,840	\$ 31,612	10.2 %
正味既経過保険料	8,962	8,550	4.8	35,689	32,521	9.7
請求および請求調整費用	6,675	10,724	(37.8)	27,949	27,867	0.3
引受経費	2,942	3,001	(2.0)	10,972	10,114	8.5
事業損失	(655)	(5,175)	87.3	(3,232)	(5,460)	40.8
正味投資利益	1,003	1,201	(16.5)	4,348	4,392	(1.0)
営業利益 (損失)	348	(3,974)	-	1,116	(1,068)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	444	(37)	-	587	(49)	-
その他の利益 (損失)	(4)	669	-	(5)	1,001	-
税引き前利益 (損失)	788	(3,342)	-	1,698	(116)	-
損害率	74.5	125.4		78.3	85.7	
経费率	32.8	35.1		30.7	31.1	
コンバインド・レシオ	107.3	160.5		109.0	116.8	
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：						
収入保険料の売上	639	600	6.5	2,513	2,520	(0.3)
保険証券発行手数料	681	732	(7.0)	2,705	2,710	(0.2)
正味投資利益	2,372	2,777	(14.6)	9,882	10,768	(8.2)
その他の利益	209	-	-	209	-	-
収入合計	3,901	4,109	(5.1)	15,309	15,998	(4.3)
給付および費用	2,970	3,066	(3.1)	12,408	11,950	0.8
営業利益	931	1,043	(10.7)	3,261	4,048	(19.4)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の給付 (償却)	(142)	(235)	39.6	(357)	(85)	(320.0)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	97	491	(80.2)	6	(1,251)	-
税引き前利益	886	1,299	(31.8)	2,910	2,712	7.3
航空機リース事業：						
収入	1,048	1,140	(8.1)	4,467	4,749	(5.9)
費用	929	1,746	(46.8)	5,462	5,447	0.3
営業利益 (損失)	119	(606)	-	(995)	(698)	(42.6)
正味実現キャピタル・ロス (a)	(2)	(1)	(100.0)	(10)	(31)	67.7
税引き前利益 (損失)	117	(607)	-	(1,005)	(729)	(37.9)
その他の事業、営業利益 (損失)	979	12	測定せず	(1,010)	(622)	(62.4)
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン調整前 税引き前利益 (損失)	981	16,195	(93.9)	(4,711)	14,985	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン(a)	173	819	(78.9)	12	908	(98.7)
会社間連結・消去調整 (a)	(78)	124	-	31	176	(82.4)
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益 (損失)	2,867	14,488	(80.2)	(1,065)	17,936	-
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	(16,914)	4,815	-	(18,036)	5,859	-
継続事業の純利益 (損失)	19,781	9,673	104.5	16,971	12,077	40.5
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	140	2,037	(93.1)	1,535	(2,064)	-
純損失	19,921	11,710	70.1	18,506	10,013	84.8
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	96	403	(76.2)	634	1,818	(65.1)
その他	27	112	(75.9)	55	355	(84.5)
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	123	515	(76.1)	689	2,173	(68.3)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	19	-	19	54	(64.8)
非支配的持分に帰属する純利益	123	534	(77.0)	708	2,227	(68.2)
AIG に帰属する純損失	19,798	11,176	77.1	17,798	7,786	128.6
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ 19,798	\$ 2,297	測定せず %	\$ 16,986	\$ 1,583	測定せず %

財務ハイライト (続き)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 19,798	\$ 11,176	77.1 %	\$ 17,798	\$ 7,786	128.6 %
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失) の調整 (税引き後)						
非継続事業の純利益 (損失)	140	2,018	(93.1)	1,516	(2,118)	-
事業売却の純収益 (損失)	1	13,506	(100.0)	(48)	13,527	-
事業売却の純利益	-	259	-	16	1,657	(99.0)
繰延税金資産評価引当金 (費用) / 減算	17,780	(1,902)	-	16,561	(1,517)	-
NY 連銀前払委託手数料資産償却	-	(708)	-	(2,358)	(2,255)	(4.6)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	377	317	18.9	336	(860)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する サンアメリカの DAC による相殺	(93)	(152)	38.8	(232)	(55)	(321.8)
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益 (損 失)、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を除く	35	52	(32.7)	181	(27)	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	-	332	-
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ 1,558	\$ (2,214)	-	\$ 1,826	\$ (898)	-
普通株式 1 株当たり利益 (損失) - 希薄化後:						
AIG 普通株主に帰属する純利益	\$ 10.43	\$ 16.60	(37.2)	\$ 9.44	\$ 11.60	(18.6)
AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ 0.82	\$ (15.59)	- %	\$ 1.02	\$ (6.57)	-
AIG 株主資本の普通株式 1 株当たり帳簿価額 (b)				\$ 55.33	\$ 46.80	18.2 %
株主資本利益率—税引き後営業利益	6.9%	測定せず		2.2%	測定せず	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。2010 年の値は、2010 年に起こったものとして、資本再構成化、株式ユニットの転換を実施して算出した値を示しています。
- その他の包括利益累積額を除く、調整済み株主資本を用いて算出しています。